

看護学科

2 年

科目名: 看護研究 I (看護研究の基礎)				担当教員氏名: 河相てる美、矢野恵子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 通年	専門科目	演習	必修		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。						
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
Evidenceの積み重ねによって看護を発展させることが必要である。そのための基礎的な技術・態度を身につけることを目標とする。また、学会や研究会に参加し、研究活動・他者との意見交換の必要性について体験し考えることも目指す。				看護研究 学会 文献検索 倫理的配慮		
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7		
A 知識・理解力		看護師として成長し続ける基礎を作るために ・看護師が研究活動を行う意義について述べるができる。 ・研究方法の種類等について述べるができる。				
B 専門的技術		・興味のあるテーマについて文献検索し、焦点を絞ることができる。 ・研究論文についてクリティークを行うことができる。				
C 論理的思考力						
D 問題解決力		・担当教員やグループメンバーとの調整を自主的に行い、課題を遂行できる。				
E 自己管理能力						
F チームワーク・リーダーシップ						
G 倫理観		・研究における倫理的配慮について述べるができる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 70 %	発表: %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項: 3回程度学会や研究会に参加し、レポートを提出する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回の授業におけるショートコメントを評価指標として用いる。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 提出レポートにコメントを記載して返却。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容		学習に必要な 時間(分)
①【河相】看護研究オリエンテーション、看護研究とは				【予習】教科書第1章を読む 【復習】①の復習		
②【矢野】看護研究のはじめ方				【予習】教科書第2章を読む 【復習】②の復習		
③【河相】情報の検索と吟味-文献レビューとその方法				【予習】教科書第3章を読む 【復習】③の復習		
④【矢野】研究における倫理的配慮				【予習】教科書第4章を読む 【復習】④の復習		
⑤【矢野】質的研究方法論 I				【予習】教科書第5章を読む 【復習】⑤の復習		
⑥【矢野】質的研究方法論 II				【予習】教科書第7章を読む 【復習】⑥の復習		
⑦【河相】データ収集				【予習】教科書第6章 【復習】⑦の復習		
⑧【河相】量的研究方法論 I				【予習】教科書第5章を読む 【復習】⑧の復習		
⑨【河相】量的研究方法論 II				【予習】教科書第7章を読む 【復習】⑨の復習		
⑩【矢野】ケースレポート・事例研究の進め方				【予習】教科書第10章を読む 【復習】⑩の復習		
⑪【河相】調査研究の進め方				【予習】教科書第11章を読む 【復習】⑪の復習		
⑫【矢野】文献検索・文献クリティークの実践: 質的研究について(演習)				【予習】興味のある文献の検索 【復習】文献抄読		
⑬【矢野】文献クリティークの実践: 質的研究について(演習)				【予習】文献抄読 【復習】文献抄読		
⑭【河相】文献検索・文献クリティークの実践: 量的研究について(演習)				【予習】興味のある文献の検索 【復習】文献抄読		
⑮【河相】文献検索・文献クリティークの実践: 量的研究について(演習)				【予習】文献抄読 【復習】文献抄読		
使用テキスト: 著: 系統看護学講座 別巻 看護研究、医学書院、黒田裕子、ISBN978-4-260-02182-1				その他参考文献など: 近藤潤子 監訳: 看護研究-原理と方法、医学書院 (他 研究に関する図書)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・興味ある事柄を追求していく楽しさを体験してください。						